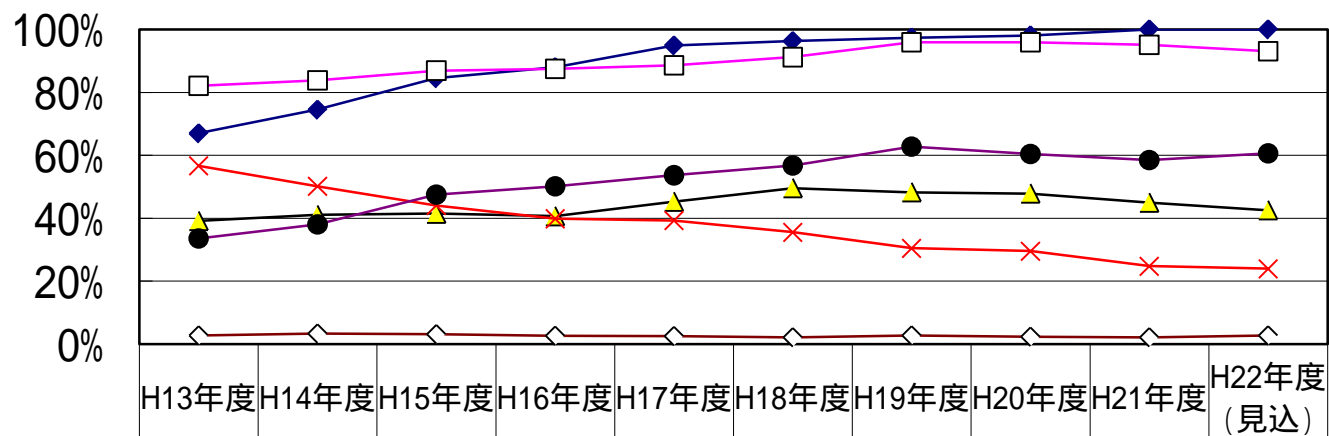




## 主な血漿分画製剤の自給率の推移(年度・供給量ベース)



	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度 (見込)
◆ 乾燥濃縮人アンチトロンピン	67.0%	74.5%	84.5%	88.0%	94.9%	96.3%	97.4%	98.1%	100.0%	100.0%
□ 人免疫グロブリン	82.1%	83.8%	86.9%	87.5%	88.6%	91.2%	95.9%	95.9%	95.1%	93.1%
▲ 組織接着剤	39.2%	41.1%	41.5%	40.7%	45.3%	49.6%	48.3%	47.9%	45.0%	42.6%
✕ 血液凝固第 因子(遺伝子組換え製剤を含む)	56.7%	50.2%	44.1%	39.9%	39.3%	35.6%	30.5%	29.6%	24.8%	24.0%
● アルブミン(遺伝子組換え製剤を含まない)	33.6%	38.1%	47.5%	50.2%	53.7%	56.8%	62.8%	60.5%	58.5%	60.7%
△ 抗HBs人免疫グロブリン	2.8%	3.4%	3.2%	2.7%	2.6%	2.2%	2.8%	2.4%	2.2%	2.8%

自給率100%のもの

乾燥人フィブリゲン、血液凝固第 因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第 因子(複合体含む、血液由来に限る)、トロンピン、乾燥濃縮人アンチトロンピン、乾燥濃縮人活性化グロブリンC、人ハプトグロビン

自給率0%のもの

インビター製剤、乾燥濃縮血液凝固第X 因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥濃縮人Cl<sup>-</sup>イオン交換樹脂